

県外視察報告書

松山郁子

1 大阪府立西成高等学校

昭和49年に全日制普通科として開校された。平成5年に普通科総合選択制に改編、平成8年に知的障がい生徒自立支援コースが設置、平成26年から総合エンパワメントスクールへと改編されている。560名が在籍している。

エンパワメントスクールは、大阪府教育委員会独自の制度であり、平成31年春には8校設置される。その特徴は、1年生時の1、2時間目を基礎学習時間として、国・英・数各30分の授業を行い、2年生からの授業も習熟度に分けて実施されること、エンパワメントタイムとして考える力やコミュニケーション力を身につける活動に取り組んでいることである。生徒は特別入学者選抜試験を受けて入学する。

基礎学習に関しては、生徒の分かるところからスタートする。小学校高学年や中学校の学習から始め、2年生から開始する高校課程の授業に備える授業が実施されていた。

学力だけでなく家庭や人間関係に悩む生徒も少なくなく、校内に、「高校内居場所カフェ」等2か所のカフェが設置されている。昼休みや放課後に生徒が立ち寄り、軽食をとりながら思い思いに過ごしている。NPO法人に委託をして運営されているが、予算は不足しており、ボランティアや寄付等で賄われている部分も多い。スタッフの方によれば、生徒の様子や会話の内容から、家庭内の深刻な問題等が明らかになり、学校や福祉へ繋がることもあるとのことである。

生徒が要保護児童の対象となり、校長やカフェのスタッフが要保護児童対策協議会のケース会議に参加することもある。生活保護世帯や非課税世帯の占める割合が少なくない状況の中で、学習だけでなく、生徒の生活的自立、社会的自立を目指して、多方面から支える取組がなされていた。

宮崎においては、そもそもの生徒数の違いや、地域性の違いもあり、同様の制度を検討することは困難であるが、高校が個々の生徒の実情を把握し、それぞれ抱える問題に積極的に対応する姿勢は学ぶところが大きかった。

2 大阪市立玉出小学校

明治6年に創立され、創立146年を迎える歴史のある小学校である。

大阪市においては、「大阪市教育振興基本計画（平成29年3月改訂）」を踏まえ、全市一律の施策に加え、学校ごとの実情に応じた各施策（A：子ども一人一人の状況に応じたきめ細やかな支援、B：教員の授業力向上、C：連携協力の推進）を展開しており、玉出小学校においては、B事業の一つである「学校力UP支援事業」が実施されていた。

同事業は経験の浅い教員に対し、退職教員等で構成される「学校力UPコラボレーター」が、指導助言や長期休業中の補充授業を実施するなどして授業の充実や学級経営の充実等の取組

を行っているものである。視察当日は、コラボレーターの石川氏（元校長）による5年生への国語の授業が行われており、担任教員だけでなく他の若手教員も見学をしていた。

各事業の他の例としては、全ての小中学校に学習教材データの配信を行い、児童生徒の進度に応じた問題を放課後学習や家庭学習で活用する「学習教材データの配信」や、小学校5・6年生を対象に理科補助員を配置し、特別事業を実施する「理科教育の充実」、教育委員会の指導主事チームを派遣し、「子どもの生きる力を育む家庭のちから」をテーマに保護者や地域住民等へ啓発活動を実施する「学校キャラバン隊の派遣」などがある。

これら事業については、多額の予算も投じられており、宮崎での実現は困難であるが、各事業の内容については参考になる点が多数あり、方法を変えて実施することもあり得る。

3 大阪市立大空小学校

大阪市立南住吉小学校の大規模化を解消するために、分校として平成18年に設立された。当初は、校区編成の問題により、1～4年生が本校、5・6年が分校に通学しており、全校児童が顔を合わせるのは年に数回であった。児童の不満の声もあったことも影響し、当時の住吉区長や地域の方々との協力のもと、現在の大空小学校の形が作られた。校名も公募で集まった候補の中から、児童の投票により決定された。

「すべての子どもを多方面から見つめ、全教職員のチーム力で育てる」を教育方針とし、教職員のチーム力を活かす学校づくりが実施されているのが特色である。常に学校運営に関する方針や子どもの情報等の共有を徹底することが方針に明示され、実際に、若手、中堅、ベテラン間での協力体制も整備されており、子どもの情報や相談ごとについては、日常的に職員室内で共有するだけでなく、別室の校長先生にもその場で相談、報告することが実施されているとのことであった。

児童に対しては、「自分がされていやなことは人にしない 言わない」を「たった一つの約束」としている。また、独自の「ふれあい科」を設置し、1年に3回の音楽コンサートが実施されている。クラス編成について、支援の必要な子どもも一緒に学ぶ方法がとられているが、各人が協力しながら、のびのびと笑顔で過ごしている様子が印象的であった。

以上